Leadership Training center

Guide Book

Junior Red Cross

青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング・センター ガイドブック

高校生

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

ちかい

わたくしは
青少年赤十字の一員として
心身を強健にし
人のためと郷土社会のため
国家と世界のために
つくすことをちかいます

リーダーシップ・トレーニング・センターガイドブック

高校生

Guide Book
Junior Red Cross

目　次

03 **1 リーダーシップ・トレーニング・センターって何だろう?**

04 **2 あなたのプロフィール**

05 **3 あなたはなぜ今ここにいるのだろうか**

06 **4 青少年赤十字のリーダーになろう**

12 **5 待っていても始まらない リーダーシップ・トレーニング・センターの生活**

掲示板
先見の時間
健康には十分注意

15 **6 ボランタリー・サービス(V・S)**

ボランタリー・サービス・ノートの使い方
ボランタリー・サービス・ノート
ボランタリー・サービスの進め方

26 **7 ホームルーム**

ホームルーム連絡会議
ホームルームの進め方
ホームルーム連絡員の役割
日直の役割
有意義な話し合いのために

30 **8 アンリー・デュナンに学ぼう**

赤十字誕生からジュネーブ条約へ

34 **9 人道を考えよう**

36 **10 私はこんな活動をしてみたい**

ワークショップ(W・S)

38 **11 あなたの新しいプロフィール**

39 **資料**

フィールドワーク(F・W)
旗の掲揚のしかた
歌/空は世界へ・青少年赤十字の歌

1 リーダーシップ・トレーニング・センターって何だろう?

トレーニングといっても体力づくりをするわけではありません。青少年赤十字のリーダーになることが目的の研修です。赤十字や青少年赤十字について学び、リーダーとして必要な知識や技術、経験を養います。

きっと忘れられない経験ができます

リーダーの研修といっても、特別に難しい勉強が待ち受けているわけではありません。仲間たちと一緒に生活し、学ぶことを通じて、あなたは本当の楽しさや多くの魅力的な体験を味わうことでしょう。魅力的な体験のほんの一部を紹介すると…

本当の仲間に出会える

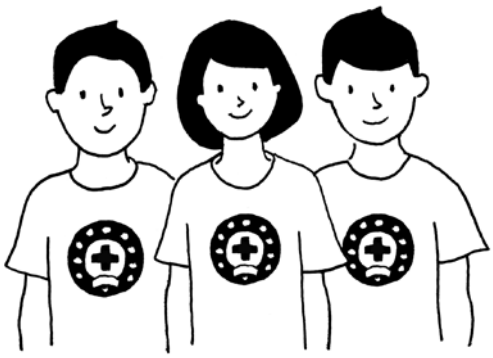
初めて会う、顔も知らない他校の人たちだけれど、目的を同じくする青少年赤十字の仲間、信頼してなんでも語り合える本当の仲間に出会える。

生き方を考えるきっかけとなる

これまでの自分の生活をふりかえり、いま自分にとって何が一番大切なことか、どんな生き方をしていけば良いのか、その方向が見えてくる。

自分に自信が生まれる

自分にも何かができるという自信が生まれ、以前よりも積極的に行動できる新たな自分を発見する。



でも、リーダーシップ・トレーニング・センターを本当に魅力あるものにし充分な成果をあげるには、あなたの参加の姿勢が重要になります。 **そこで…**

2 あなたのプロフィール

　これからこのトレーニング・センターに参加しようとしているあなたはどんな人ですか。今の自分を、見つめてみましょう。（記入できたらホームルームの時間などで自己紹介に活用しましょう。）

・あなたの人間像をひと言で表現すると

・あなたの性格の好きなところ

嫌いなところ

・好きな言葉

・今までで一番感動したこと、うれしかったこと

・今一番大切にしているもの

・将来どんな人になりたいか

3 あなたはなぜ今ここにいるのだろうか

「決まってるじゃないか。このトレーニング・センターに参加するためだ。」とあなたは言うかもしれません。しかし、それではなぜこのトレーニング・センターに参加するのでしょうか?思いつく限りの理由を下に書き出してみましょう。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

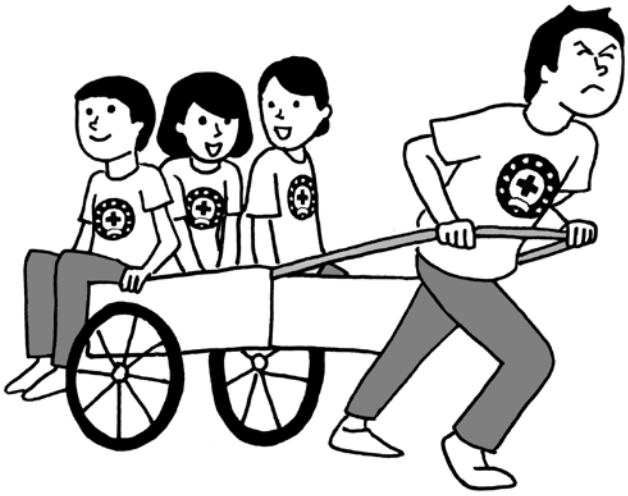
ここではいくつ書けたかが問題なのではありません。先生や先輩に行けと言われてしかたなくここにいるあなたも、なんだか知らないうちにここに来てしまったあなたも、おもしろそうだから参加したくて来たあなたも、このトレーニング・センターの期間中、時々、「自分はなぜ今ここにいるのか」を思い出して考えるようにしてください。

そして、より良いリーダーになるためには、今何をすべきなのかを良く考え具体的な目標を持って行動することを心がけましょう。

4 青少年赤十字のリーダーになろう

リーダーとは、どんな人のことだと思いますか。いつも先頭に立って、みんなを引っ張っていけるような能力を持った限られた人だけがリーダーになれるのでしょうか。

青少年赤十字のリーダーは誰でもなれます。いやむしろ、青少年赤十字メンバーは、誰もがリーダーでなければならないのです。ひとりひとりがリーダーシップを発揮して、協力したとき大きな力が生まれます。



あなたも必ずリーダーになれます。リーダーシップ・トレーニング・センターで、そのきっかけをつかんで下さい。

青少年赤十字のリーダーにとって大切なことは何でしょうか。次の5つのキーワードを常に頭の中に置いて考えましょう。

**青少年赤十字の
リーダーのためのキーワード**

1

人道を行動に

「赤十字は苦痛と死とに対して闘う。赤十字は人間がすべての場合において人間らしく取り扱われることを要求する。」（ジャン・S・ピクテ著「赤十字の諸原則」から「人道」について）

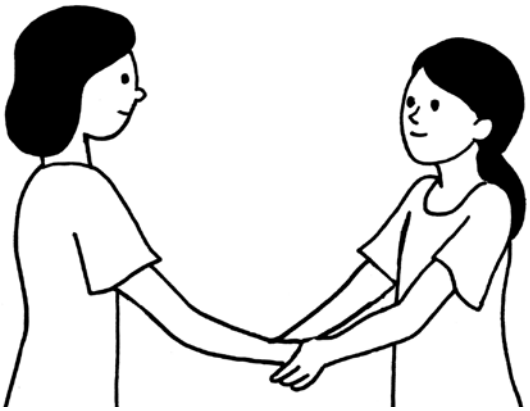
人道は赤十字の最も基本的な原則です。しかし、それは赤十字に任せておけば良いと言うものではありません。

この人道の原則の「赤十字」のところを「私」に入れ替えて読み直してみましょう。

「私は苦痛と死とに対して闘う。私は人間がすべての場合において人間らしく取り扱われることを要求する。」

これは人のいのちに対する最高の決意表明です。

人道は他人ごとではありません。知識として覚えたからといって実現できるものでもありません。青少年赤十字のリーダーは人道を自分の行動として、日常生活の中に実現していく人です。



青少年赤十字の
リーダーのためのキーワード

2

自分を見つめる

人道を実践する青少年赤十字のリーダーには、すべてのことを自分で考え、自分の意志で決断し行動してゆく力と、自分の行動に全責任を持つ勇気が求められます。

今までそんなことを意識したこともない、急にそんなこと言われても自信がないというあなた、このトレーニング・センターでは、まず、今のありのままの自分を見つめてみることです。

自分自身がいま抱えている問題は何か。自分はどういう人間なのか。真剣に自分を見つめるうちに、今まで気づかなかった自分の力、可能性が見えてくるはずです。そして行動にも自信が出てきます。

青少年赤十字のリーダーは常に自分を見失わず、自分の力で行動してゆく人です。

**青少年赤十字の
リーダーのためのキーワード**

3

ForからWithへ

人間はみんな助け合って生きています。自分も多くの人々によって支えられ生かされて、ここまで成長してこられたはずです。まず、このことをしっかりと自覚しましょう。

“困っている人、自分より弱い人に何かをしてあげたい、役立ちたい”。それは誰の心にもある自然な感情です。でもこれは一方の見方です。何かをしてもらう側の気持ちを考えたことがあるでしょうか。

人はみな生きる権利を持っています。そのひとりひとりの権利が正しく守られるためにはどうしたらよいか、人間どうし共に学び合い、行動してゆくことが大切です。

青少年赤十字のリーダーは、For（誰かのために）という一方通行の考えを卒業し、With（といっしょに）“共に生きる”という発想をもって行動する人です。

青少年赤十字の
リーダーのためのキーワード

4

奉仕は責任

奉仕は私たち人間社会に生きるものの責任です。ここでいう奉仕とは何をすることだと思いますか?責任とは何に対する責任なのでしょう?

青少年赤十字のリーダーは“共に生きる”学びを通して、人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、実行します。

言い換えれば、ひとりの人間として、自分の生活を積極的に生き、周囲の問題に真剣に取り組む人です。

青少年赤十字の
リーダーのためのキーワード

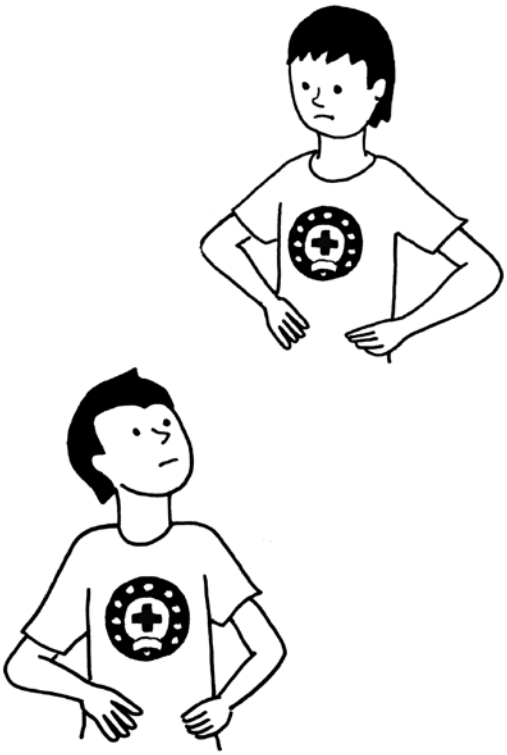
5

違いを認め合う

世の中に自分と全く同じ人間というものはひとりもいません。当たり前のことのようですが、しかし、自分と人とは違うものだということを率直に認めることは実は大変難しいことです。

なぜこんなこともわかってくれないのかと腹を立てたり、何を考えているのかわからなくなって友人を見放したりと、自分と人とが同じと思うから生まれる誤解や行き違いはよくあることです。

しかし、本当は違うからこそ出会いがあり、お互いに学び合う喜びが体験できるのです。



青少年赤十字のリーダーは、相手の良さを認め、自分の良さを発見し、個々人の違いをその人の持ち味として受け止め、それをどう生かしてゆくかを考える人です。

5 待っていても始まらない リーダーシップ・

主役はあなたです！

合図のチャイムはない、放送も号令もない、待っていても誰も指示はしてくれません。
今自分が何をすべきか、次にどう行動するのか、それはあなた自身が決めることだからです。

すべてに注意深く

自分で決断し、自分で行動するためにはいろいろなことに注意深くして、情報を得る必要があります。時計や掲示板を見て行動する、日程表や配布された資料をよく見る、人の話をよく聞く、わからないことは質問する、必ずメモをとる、注意深い行動をするためにはこういう具体的な努力が大切です。

また、自分の頭の中に浮かんでくる考えも逃さず、感じたこと、考えたことを自分の言葉でメモに書きとめておきます。他の人たちがどんなことに取り組んでいるか、まわりの様子にも注意をはらいます。

全身の感覚を鋭くし、アンテナをはって、必要な情報をキャッチしましょう。

掲示板

緊急なことを除いて、参加者への連絡は掲示板を使って伝えられます。これは参加者ひとりひとりが注意深い生活をし、自主的な行動を積み上げてゆくために考え出されたものです。大きな声を上げたり、放送を使って、その情報を必要としない人にまで強制するということをせず、静かな落ち着いた生活を守ることにも役立ちます。単なる伝言板以上に参加者にとって大切な情報の場になります。毎日数回、時間を決めて見るくせをつけ、自分に関係ある情報をキャッチし、必要があればメモをとります。同時に参加者へ伝えたいことがあればあなたも大いに活用しましょう。

トレーニング・センターの生活

考えを持つ

どんなことにも自分の考えを持つようにします。そのためにはたとえ短くても、自分ひとりで考える時間をつくることが大切です。他人やその場の雰囲気に流されていては自分の考えは持てません。生活の様々な場面で、自分で考えて行動しましょう。

考えたことは積極的に言葉や行動で表現して確かめましょう。同時に人の考えを理解するよう努力します。

先見の時間

いつ、どんな事態に直面しても、これに対処できるよう日頃から備えておくことが大切です。リーダーシップ・トレーニング・センターでは、自分が何を学び、どのように行動してゆくかを自分で考え、そのための準備をする時間として一日のはじめに用意されています。集団生活の中で見失いがちな自分自身を取り戻し、前日までの行動の反省をし、きょう一日の生活への心構えをする時間です。日頃からメモを取る習慣を身につけ、気づいたこと、思いついたことを書きとめておけば、この時間に役立つでしょう。

自分を生かす

リーダーシップ・トレーニング・センターでは、あなたはお客様ではありません。したがって、ここでの生活をより良いものにするために、一人ひとりが積極的に何かの役割を担い、責任を持ってそれを果たしていくことが求められます。

あなたが、このトレーニング・センターを本当に自分のものと考えて、自分を生かし、意欲的に参加するなら、きっと大きな成果を上げることでしょう。自分を生かし、他に役立てる努力が自分自身の学びにつながるのです。

健康には十分注意

リーダーシップ・トレーニング・センターでは、普段と違った環境の中で、初めて会う人たちと集団生活をするのですから、当然、誰でも不安を感じ、自分でも気づかないうちに緊張して、疲れて具合が悪くなることがあります。慣れない生活から体調をくずして病気になったり、うわついた気分が思わぬケガをまねくことにもなります。

ひとりひとりが自分の健康に注意し、もしも、途中で気分が悪くなったり、ケガをしたら、どんな小さなことでも必ず先生に申し出ること。これは集団生活のエチケットです。また、仲間の中にこのようなことが起こっていないか、まわりを思いやることもリーダーとして大切なことでしょう。

普段と違った生活環境に慣れることも貴重な学習体験となるのですから、健康と安全に充分注意しながら、積極的にグループにとけこむよう努力することも忘れてはなりません。

健康調査カードは、自分の今の健康状態を伝え、先生が全員の様子を把握するためのものです。毎日必ず決められた時間までに提出しましょう。

健康調査カード

月　　日　　ホーム・ルーム

名前：

朝食は　よく食べた　少し残した
　　半分以上残した

昨日は　よくねむれた　少しねむれなかった
　　ほとんどねむれなかった

体調は　快調　ふつう　だるい

気分は　そうかい　ふつう　良くない

用便は　あった　なかった（　日目）

下痢を　していない　している（　日頃から）

〔注〕● あてはまるものを○でかこんでください。
● 異常のある場合は、そのことを用紙のあいているところに書くとともに早めにスタッフに連絡すること。

6 ボランタリー・サービス（V・S）

誰から命じられることもなく自ら進んで周囲の人のために役立とうとする具体的な活動がボランタリー・サービスです。

このトレーニング・センターでは、初めて会う人々と慣れない会場で一緒に生活するのですから困ることやより良い生活をするために工夫した方が良いことが出てくるでしょう。あなたはどんなことに役立つことができるでしょうか?

このトレーニング・センターをより良いものにするために、そして自分自身のリーダーの学習のためにも、ボランタリー・サービスに取り組みましょう。

ボランタリー・サービス・ノートの使い方

1. このノートは自分の頭の中を整理するための道具です。いつでも気づいた時に書き込みながら考えをまとめます。

2. 実行する前に必ずホームルームの先生にノートを見せて相談します。相談は、自分から進んで、必ず一日1回以上、遅くてもその日のホームルームの時間までに済ませましょう。

3. 実行にあたって、ホームルームの先生から、実行方法について相談に応じてくれる先生を指定されたら、その先生のところへ行って、さらに具体的に相談します。

4. 連絡、調整には掲示板を活用しましょう。ボランタリー・サービスは決められた時間だけでなく自由時間も有効に利用して実行するものです。

5. 実行した後は、実際に役に立ったか、どういう点がうまくいかなかったかなどを自分で評価、分析し、反省を記入して、次のステップに生かします。

ボランタリー・サービス・ノート

<table>
<tr><td colspan="3">月　　日　　時　　分　　No.</td></tr>
<tr><td>問題の発見</td><td>問題
（Needs）
と
その原因
（Why）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">問題の解決</td><td>なにを
（What）</td><td></td></tr>
<tr><td>いつ
（When）</td><td></td></tr>
<tr><td>どのように
して
（How）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">（　　）先生の所へ（　　）の時間に相談に行きましょう。</td></tr>
<tr><td>自己評価
・反省</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

ボランタリー・サービス・ノート

<table>
<tr><td colspan="3">月　　日　　時　　分　　No.</td></tr>
<tr><td rowspan="3">問題の発見</td><td>問題
（Needs）
と
その原因
（Why）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">問題の解決</td><td>なにを
（What）</td><td></td></tr>
<tr><td>いつ
（When）</td><td></td></tr>
<tr><td>どのように
して
（How）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">（　　）先生の所へ（　　）の時間に相談に行きましょう。</td></tr>
<tr><td>自己評価
・反省</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

ボランタリー・サービス・ノート

<table>
<tr><td colspan="3">月　　日　　時　　分　　No.</td></tr>
<tr><td>問題の発見</td><td>問題
（Needs）
と
その原因
（Why）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">問題の解決</td><td>なにを
（What）</td><td></td></tr>
<tr><td>いつ
（When）</td><td></td></tr>
<tr><td>どのように
して
（How）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">（　　）先生の所へ（　　）の時間に相談に行きましょう。</td></tr>
<tr><td>自己評価
・反省</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

ボランタリー・サービス・ノート

<table>
<tr><td colspan="3">月　　日　　時　　分　　No.</td></tr>
<tr><td rowspan="1">問題の発見</td><td>問題
（Needs）
と
その原因
（Why）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">問題の解決</td><td>なにを
（What）</td><td></td></tr>
<tr><td>いつ
（When）</td><td></td></tr>
<tr><td>どのように
して
（How）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">（　　）先生の所へ（　　）の時間に相談に行きましょう。</td></tr>
<tr><td>自己評価
・反省</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

ボランタリー・サービス・ノート

月　日　時　分　No.		
問題の発見	問題 （Needs） と その原因 （Why）	
問題の解決	なにを （What）	
	いつ （When）	
	どのように して （How）	
（　　）先生の所へ（　　）の時間に相談に行きましょう。		
自己評価 ・反省		

ボランタリー・サービス・ノート

<table>
<tr><td colspan="3">月　　日　　時　　分　　No.</td></tr>
<tr><td>問題の発見</td><td>問題
（Needs）
と
その原因
（Why）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">問題の解決</td><td>なにを
（What）</td><td></td></tr>
<tr><td>いつ
（When）</td><td></td></tr>
<tr><td>どのように
して
（How）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">（　　）先生の所へ（　　）の時間に相談に行きましょう。</td></tr>
<tr><td>自己評価
・反省</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

ボランタリー・サービス・ノート

<table>
<tr><td colspan="3">月　　日　　時　　分　　No.</td></tr>
<tr><td>問題の発見</td><td>問題
（Needs）
と
その原因
（Why）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">問題の解決</td><td>なにを
（What）</td><td></td></tr>
<tr><td>いつ
（When）</td><td></td></tr>
<tr><td>どのように
して
（How）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">（　　）先生の所へ（　　）の時間に相談に行きましょう。</td></tr>
<tr><td>自己評価
・反省</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

ボランタリー・サービスの進め方

問題を発見する（Needs、Why）

自分はどのようなことをすれば、このトレーニング・センターの生活で役立つことができるか、これは頭で考えているだけでは見えてきません。

どこに問題があるか、どこを改善したらいいか、普段なら見過ごしてしまうような問題は、注意深い生活をする人にだけ見えてくるものです。

その問題を確かめる（問題の分析・原因の追求）

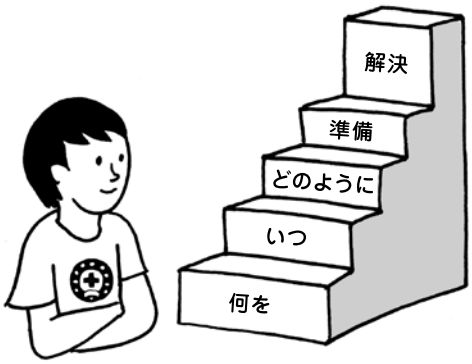
発見した問題が本当に解決を必要とするものかどうかを確かめます。問題と思われたことでも良く調べているうちに問題でなくなったり、解決しようとして行動に移したら、かえって人の迷惑になってしまったということもあります。

また、どんなことが必要とされ、どんな解決のしかたが求められているかを考えます。

問題の解決策を考える（何を、いつ、どのように）

問題点がはっきりつかめたからといって、計画も立てずにいきなり行動に移すのは賢明な方法ではありません。

何を、どのような方法で、いつ実行するか、そのためにどんな準備が必要か、ひとりでできるのか、協力を求めるならどのように呼びかけるか、どんな簡単な小さなことでも、計画を立てて実行する習慣を身につけることが大切です。



実行する

あなたが本当に必要と感じ、解決しなければならない大切な問題だと考えたのですから、問題が解決されるまでしっかりとやり遂げます。また、自分の行動が周囲へどのような影響を及ぼすか、そこに新たな問題が生まれていないかなども注意しておくべきでしょう。

自分の行動のすべての責任は自分が負うという自覚を持って実行するということが最も大切なことです。

自分で評価、反省する

リーダーシップ・トレーニング・センターでは、採点や評価は一切行いません。自分の行動に対する評価はまず自分自身でしてみます。

ボランタリー・サービスも終わったらそのままにしないで、自分の行動が本当に問題の解決につながったのか、周囲に役立ったのか、自分で評価しましょう。

形式的な評価・反省に終わらせず、うまくいった点、もっと工夫をした方が良かった点などを整理し、次の活動に生かします。

全員が活発にボランタリー・サービスに取り組めば、リーダーシップ・トレーニング・センターは必ず大きな成果を収めることになるでしょう。

気づいたことはどんなことでもボランタリー・サービス・ノートに整理してどんどん実行しましょう。

7 ホームルーム

その日のプログラムの中で感じたことや考えたこと、疑問、反省などを自由に出して話し合い、学んだことを確認し合う時間です。

相手のことを思いやり、自分の殻を脱いで、なんでも気軽に話し合えるように、お互いに打ち解けた雰囲気を作り出すよう心がけましょう。

一日の反省を行い、出てきた問題は一つずつ確実に解決し、もしホームルームだけでは解決できず全体で調整する必要があると思われれば、ホームルーム連絡会議に提出します。

ホームルーム連絡会議

生活上、特に全体にかかわることで調整を必要とする問題について話し合います。ただし、ここで何かを決定し、参加者を拘束できるような議決機関ではなく、ホームルームメンバーの意向を伝達し、参加者の目や耳、口となる世話役です。個人やホームルームで解決できるような問題はここに持ち出しません。

進め方は、 1.日直を選出する。
2.各ホームルームから連絡調整の必要のある事項を発表する。
3.必要な調整を行う。

ホームルームの進め方

1. ホームルーム連絡員と記録者を選出する。
2. 一日の生活の反省と提案、ホームルーム連絡会議へ提出し、調整をしたほうが良いことがあれば出す。
3. 以上のことをなるべくスムーズに済ませて、あとは何でも話し合える時間にする。
4. 記録者は話し合いの内容を日誌に記録する。

ホームルーム連絡員の役割

○ホームルームの司会進行をする。

○ホームルーム連絡会議に出席する。

○日直や他の連絡員と協力して、一日の集団生活のペースメーカーとなる。
（次の日のホームルームで交替する。）

日直の役割

○ホームルーム連絡会議の司会進行をする。

○ホームルーム連絡員のまとめ役（次の日のホームルーム連絡会議で交替する。）

有意義な話し合いのために

ホームルームやグループ討議での話し合いは、それぞれに目的があります。話し合いを効果的に進めるために参加者は次のことを心がけて積極的に話し合いに加わるようにしましょう。

発言する

当然のことですがこれが一番大切なことです。ところが、グループの中にいるとこれが一番難しいことでもあります。限られた人ばかりが発言して、あとの人たちは黙って聞いているということはよくあることです。発言することは参加者の義務だと考えましょう。たとえ同じ意見でも発言することが大切で、同じ意見を持っていることの表明となります。また、発言が多くなりがちな人は他の人のことを思いやるということも心がけましょう。ひとりで長々と演説したり、わき道にそれたり、無責任な思いつきを言わないように注意することも大切です。

上手な話し方

○短く、要領良く
○具体的に
○自分の言葉でわかり易く
○言いたいことはまずメモにまとめて
○姿勢を正し、視線を相手に合わせて
○表情を明るく豊かに
○良く理解してもらおうとする心遣い

他の人の意見を良く聞く

言葉じりやうわべだけをとらえるのではなく、その人がどんなことを考え、何を一番いいたいのかをその人の身になって聞き、理解しようとする姿勢が聞き手にとって大切なことです。

同時に、人が出した意見に対して自分はどう思うかを考え、自分の意見を出すことが必要となります。ただし、人の話は終わりまで聞くことが大切です。途中でさえぎって自分が発言するというようなことはしないようにします。

上手な聞き方

○適度にあいづち
○内容を頭の中で整理しながら
○質問を用意して
○姿勢を正し、視線を相手に合わせて
○表情を明るく豊かに
○良く聞こうとする心遣い

8 アンリー・デュナンに学ぼう

アンリー・デュナンは赤十字の創立者です。彼の行動の中から私たちは人間として学ぶべきものを多く見出すことができます。青少年赤十字のリーダーにとって大切なものは心です。

その心を彼から学びましょう。

アンリー・デュナンは何をしたのか

アンリー・デュナンがしたことを、わかるかぎり下の欄に書き出してみましょう。そして彼がなぜそうしたかを考えてみましょう。

	何をしたのか	なぜそうしたのか
1		
2		
3		
4		
5		

	何をしたのか	なぜそうしたのか
6		
7		
8		
9		
10		

アンリー・デュナンが大切にしようとしたこと

アンリー・デュナンがしたことをもとに、彼が一番大切にしようとしていたことは何かを考え、下の欄に整理してみましょう。

あなたはどう思う?…アンリー・デュナンの行動

あなたも同じ場面に遭遇したら同じことをしていたでしょうか。
それとも、気持ちは良くわかるがとても真似できないと思いますか。
彼の行動に対する率直な感想を書いてみましょう。

あなたが彼の行動に共感できる点

あなたが彼の行動に疑問を感じる点

赤十字誕生からジュネーブ条約へ

ひとつひとつの項目を青少年赤十字ハンドブックなどで詳しく調べてみましょう。

ソルフェリーノの戦い1859年

アンリー・デュナンの行動＝カスティリオーネの町の人々
人類はみな兄弟…〈人道の原則のスタート〉

「ソルフェリーノの思い出」1862年 2つの提案

- 戦場で負傷した兵士を敵・味方の区別なく救護するために各国に民間の団体を前もって組織しておく
- その団体が戦場で安全に活動できるように国際的な取り決めを結ぶ

各国政府への反響

五人委員会1863年…赤十字の誕生

デュナンの提案の実現に努力、16カ国の代表による国際会議

赤十字国際委員会
1875年

赤十字社（人道の組織化）

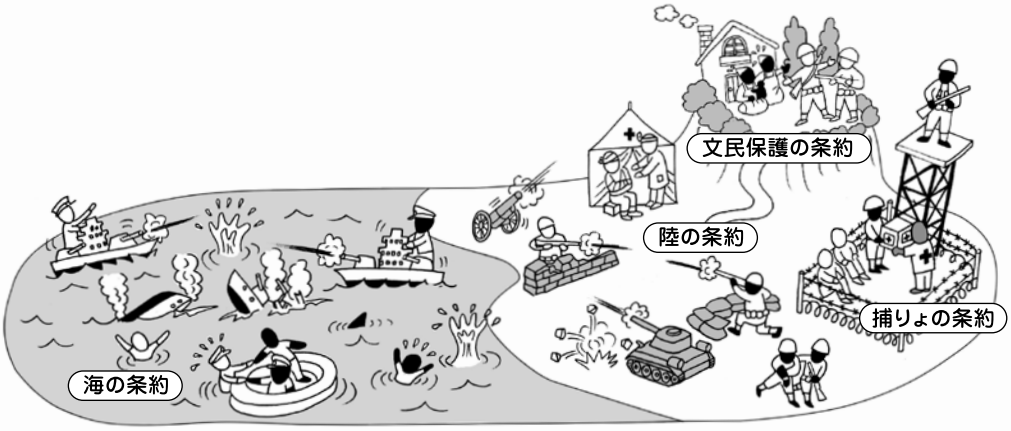
赤十字社連盟1919年

戦争犠牲者の保護範囲の拡大

最初のジュネーブ条約1864年（人道の成文化）

- 陸上の戦争に適用
- 赤十字マークをつけた看護人や建物は中立として守らなければならない
- 海上の戦争への応用 1899年
- 敵対国に捕われた人々（捕りょ）の保護 1929年…赤新月マークの承認
- 戦争に巻き込まれたり、敵対国の占領下にある一般市民の保護 1949年

［現在］1949年8月12日のジュネーブ条約（次の4条約から成る）



9 人道を考えよう

テレビのニュースなどで「人道的に取り扱う」とか、「人道的立場に立つ」という言葉を聞いたことがあるでしょう。

人道的って一体どういうことでしょう。なんとなくわかるけど説明は難しいかもしれません。例えば、このトレーニング・センターに参加しなかった学校の仲間にわかるように説明するとしたら.

“人道”を自分の言葉で説明してみよう

人道に対する人間の弱点

人道がいかに素晴らしい理念であっても実際に行動されなければ何の値打ちもありません。“人道を行動に”と言葉で理解できてもこれを実行するのは非常に難しいことです。人間には誰の心にも重大な弱点があって、いつも人道を忘れさせようとしているのです。

その弱点とは次の4点です。自分自身の中に思い当たることをなんでも記入してみましょう。

	トレーニング・センターでの自分	学校や家での自分
利己心 自分のことしか 考えない		
無関心 困っている人を見ても 気にならない		
認識不足 自分の知らないことを 知ろうと思わない。		
想像力の欠如 人の痛みを 理解できない		

10 私はこんな活動をしてみたい

いよいよリーダーシップ・トレーニング・センターも終わりに近づいて来ました。あなたのノートにはぎっしりとメモ書きが詰まっていることでしょう。頭の中には様々な思いやアイデアが渦巻いているのではありませんか。

学校に帰ったらどんな活動をしたいと思いますか。したいとは思うけどそう簡単にはできないだろうなというようなものもあるでしょう。そんなことも含めて、ここで学んだことや得たヒントをもとに、実行してみたい活動を書き出してみましょう。

	実行してみたい活動	その理由
1		
2		
3		
4		
5		

いくつか出てきた中で、一番取り組んでみたい、または実現できそうな活動をひとつ選んでワークショップをします。

ワークショップ（W・S）

青少年赤十字活動を実際に始めようとするとき、まず初めに計画を立てることが大切です。

リーダーシップ・トレーニング・センターで学習したり、経験したことを生かして、学校に帰ったらどんな活動をしようと思うか、頭に浮かんだ活動のアイデアを本当に実行に移せるような具体的な行動計画に立案することを「ワークショップ」と呼びます。

先輩から引き継いだことだけをするのではなく、その時々に必要とされる活動を見つけ、自分たちの力で工夫して実行することが、仲間の新たな意欲を呼び起こし、あなたの学校の青少年赤十字活動を活発にすることにもつながります。

ワークショップは個人で取り組む場合とグループで取り組む場合とがあります。同じ学校から参加したメンバーがトレーニング・センター終了後、共同で実行するような活動ならばグループで取り組むことも考えられます。

ワークショップの利点…

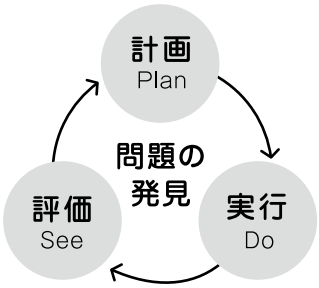
◯ 具体化してゆく中で、準備を必要とする点やあいまいな点、実行する場合の問題点など、頭の中だけで考えていては見えてこなかったような、解決すべき課題が明らかになる。

◯ だれでもそれを見れば実行に移せるくらいに具体的な計画案にすることで、この活動に協力してくれる仲間を求めるときの説明に役立つ。

◯ しっかりした計画であればあるほど、是非とも実現させたいという、その活動への意欲が生まれ、また活動への責任感も生まれる。

ところで、ボランタリー・サービスを実行するときに記入し整理してきたボランタリー・サービス・ノートは小さなワークショップといえるものでした。

ワークショップで最も大切なことは、その活動をする目的、必要性を確認することです。ここが明確でないと具体的に役立つワークショップはできません。ワークショップを考えていくときに24ページの「ボランタリー・サービスの進め方」を参考にすると良いでしょう。



また、必要性を正しく把握するために、実態を調査して情報を集めるなど、丁寧な取り組みが成功のカギとなります。

11 あなたの新しいプロフィール

トレーニング・センターは終わりますが、あなたの生活はこれから、また始まります。ここに来る前と同じ生活ですか。それとも新しい自分を発見して、青少年赤十字のリーダーとしての新しい生活が始まりますか。今一番ホットなあなたの新しいプロフィールを描いてみましょう。

・トレーニング・センターで一番学んだこと

・一番感動したこと、心に残ったこと

・解決できたあなた自身の課題

・これからあなたが一番大切にしていきたいこと

・どんなリーダーになりたいか

・どんな生き方をしていきたいか

＊トレーニング・センターに参加しての感想文を書くときなどに活用しましょう。

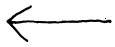
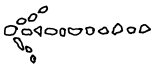
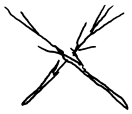
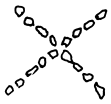
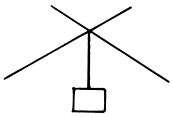
資料

フィールドワーク（F・W）

フィールドワークは野外におけるプログラムで、参加者が小グループに分かれて、きめられた指示（ルール）に従い、一定のコースをグループごとに行動します。フィールドワークには、トレーニング・センターで学んだり、体験したりした各種の知識、技術を野外において復習する意味が含まれています。

豊かな自然に親しみながら、澄んだ空気と自然を育てる大地の感触に思う存分ふれてみてください。

フィールドワークのサイン　サインのそばに赤十字マーク・日付をつける。

矢印の方向に進め	 チョークで道ばたの電柱、石、木のかぶに、注意ぶかく小さくかく。	枯れ枝で矢印を作り、車や他の通行人に、こわされないように置く。	 小石を並べる	
	ケルンを積む	木に枯れ枝をかける		
この道ではない。ほかの道のサインをさがせ	チョーク等で×をかく	 小枝を×に組む	 小石を並べる	
この方向〇〇メートルに手紙がある	5　M → 道ばたの動かない石、または木のかぶにハッキリかく			
その他のサイン	目的地が遠い	目的地が近い	5　分 休憩5分	 危険近づくな

旗の掲揚のしかた

旗はその団体のシンボルとしても意味を持つものなので、大切に

1

２人であげるのが普通で、ポールに向かってAが左、Bが右にならび、Bが旗をもち、Aがロープを綱止めからはずし、２人でロープに旗をつけます。この場合、決して旗のはしが地面を引きずることのないよう気をつけます。また、ポールに向って右側のロープに旗をつけ、旗がついたら、Aは余分のロープを綱止めにまき、Bはロープに旗をはさんで広がらないようにしておきます。
このようにあらかじめ用意をしてから、掲揚の合図を待ちます。

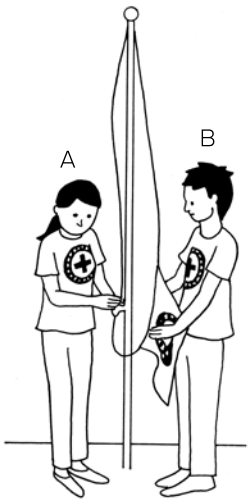
2

合図があったらポール前に2人がならび、Aがロープをほどき、綱がからまっていないか確かめてから、引き綱をAが、旗のついている上げ綱をBがもって立ちます。音楽や歌に合わせて掲揚する時はここで音楽または歌を始め、終わるまでに上の滑車にとどくよう同じ速度であげます。速くなったり遅くなったりしながらあげたり、途中で速度が速くなることがないよう気をつけましょう。音楽が終わっても旗が上の滑車にとどかないことがないよう、旗のあがる速度を調節します。Bは旗がロープにからまないよう気をつけ、なるべくポールに添って旗があがるように注意します。

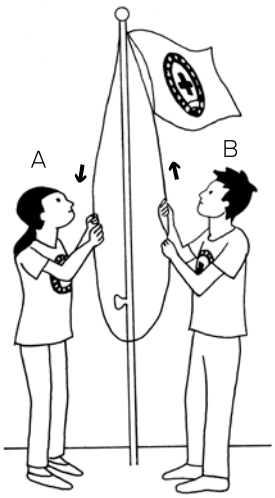
3

あげ終わったら、Aは引き綱を綱止めに２、３回巻きつけてから、Bの上げ綱といっしょに8の字に綱止めにまきます。このようにすると強い風の時も半旗(注)にならないですみます。

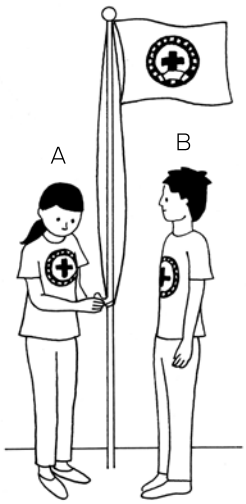
(注)
半旗というのは、弔意をあらわす旗のあげ方で、ポールの先端の竿頭(玉)から20cmほど旗をさげて掲げることです。



● 旗のはしが地面を引きずることのないように気をつけます。
● あらかじめ用意をしてから、掲揚の合図を待ちます。



● 旗をあげる時の速度に注意しましょう。
● 旗がロープにからまらないよう気をつけ、ポールにそって旗をあげましょう。



● まず引き綱をとめてから、上げ綱とともに8の字に綱止めにまきます。
● 半旗にならないようにきちんと綱をとめましょう。

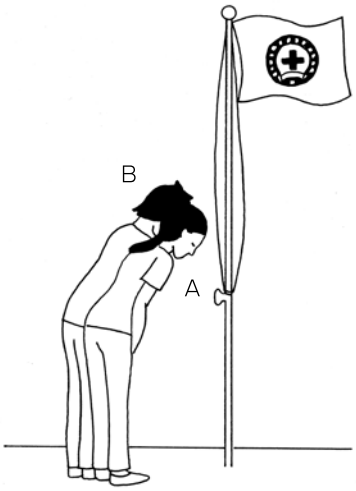
扱うよう心がけましょう。

4

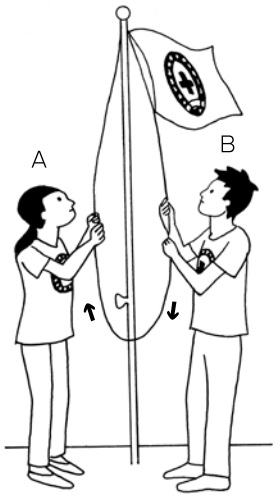
AとBはならんで、旗に対し、一礼をしてもとの位置にかえります。

5

旗をおろす時は、Aが綱止めからロープをほどき、2人がロープをもって、Bがロープを引いておろします。旗がおりた時、地に引きずらないよう注意し、旗を2人ではずし、Aがロープを綱止めに固くまいてとめます。旗をきちんとたたみ、保管場所に保管します。

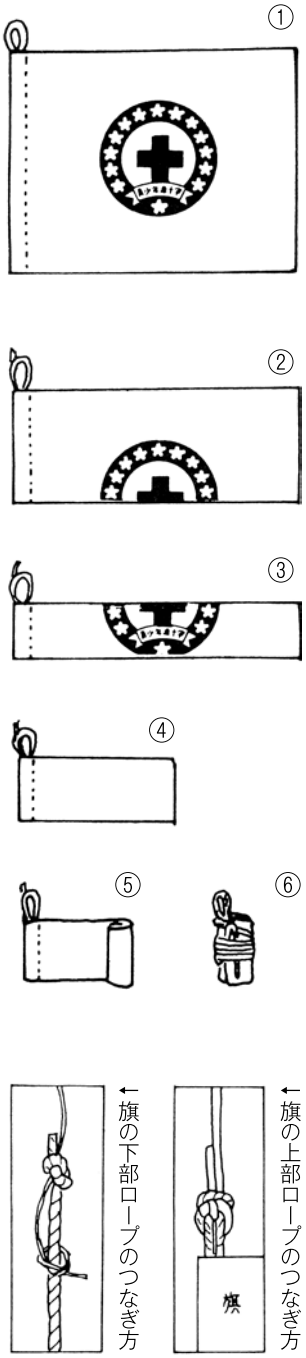


● 一礼をしてもとのところへかえります。

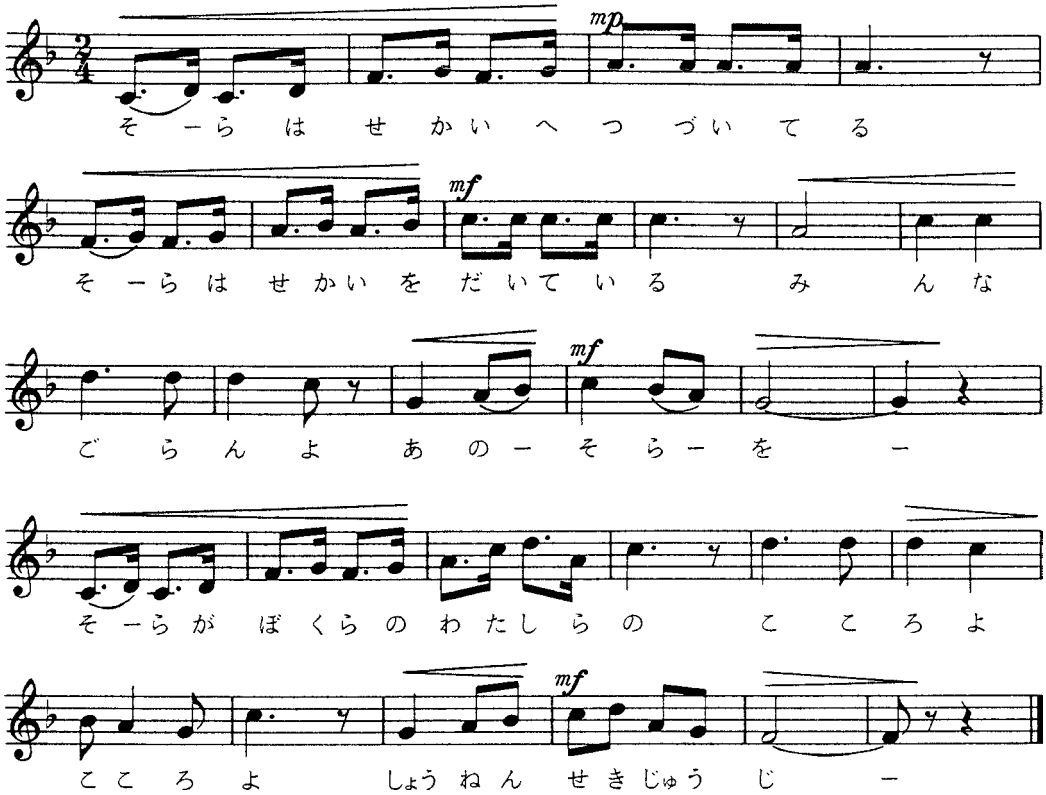


● 旗をおろした時も旗が地面に引きずることのないように気をつけましょう。
● 旗はきちんとたたんで保管しましょう。

旗のたたみ方



空は世界へ



空は世界へ

杉江健次 作詞
杉江健介
橋本国彦 作曲

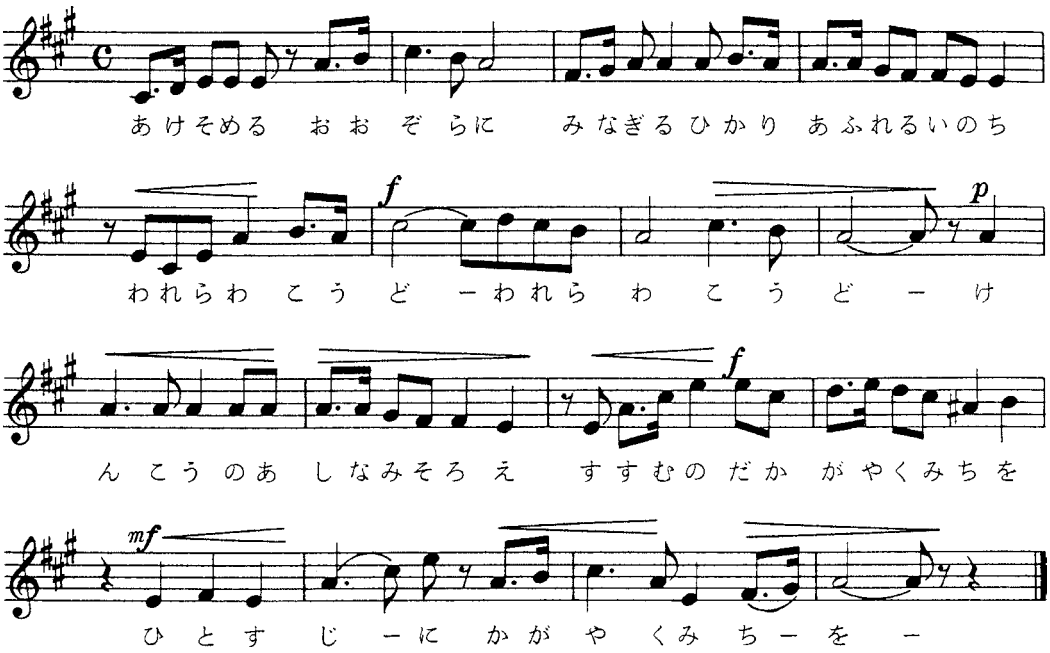
一、空は世界へ つづいてる
空は世界を だいている
みんなごらんよ あの空を
空が僕らの 私らの
こころよ心よ 少年赤十字

二、花はだれにも 匂ってる
花はやさしく 匂ってる
みんなごらんよ あの花を
花が 僕らの 私らの
すがたよ姿よ 少年赤十字

三、星はどこでも 光ってる
星は仲よく 光ってる
みんなごらんよ あの星を
星が 僕らの 私らの
ほこりよ誇りよ 少年赤十字

四、旗は十字の 愛の旗
旗はかがやく 愛の旗
みんなごらんよ あの旗を
旗が 僕らの 私らの
しるしよしるしよ 少年赤十字

青少年赤十字の歌



青少年赤十字の歌

田中進兵衛　作詞
山田　耕筰　作曲

一、明けそめる　大空に
みなぎる光　あふれるいのち
われら若人（わこうど）　われら若人
健康の足並そろえ
進むのだ　かがやく途（みち）を
ひとすじに　かがやく途を

二、さしのべる手を　組んで
あわせる力　つらぬくまこと
われら若人　われら若人
清純の　ちかいにこぞり
尽くすのだ　世界のために
人のため　世界のために

三、海こえて　へだてなく
呼び合う心　ゆき交うこだま
われら若人　われら若人
親善の　結びもかたく
仰ぐのだ　十字の旗を
ひるがえる　十字の旗を

MEMO

青少年赤十字
リーダーシップ・トレーニング・センター
ガイドブック高校生

平成 2 年6月25日　初版発行
平成25年7月31日　11版2刷発行
編集者　日本赤十字社 総務局 組織推進部
　　青少年・ボランティア課
〒105-8521　東京都港区芝大門1丁目1番3号
電話　03-3437-7082（ダイヤルイン）
FAX　03-3432-5507
ホームページ　http://www.jrc.or.jp
発行所　株式会社日赤サービス

Junior Red Cross

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
〒105-8521 東京都港区芝大門1丁目1番3号　TEL 03-3437-7082（ダイヤルイン）FAX 03-3432-5507